



2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年8月12日

上場会社名 株式会社サンドラッグ 上場取引所 東
 コード番号 9989 URL <https://www.sundrug.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 貞方 宏司
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理部長 (氏名) 加藤 好伸 (TEL) 042 (369) 6211
 四半期報告書提出予定日 2022年8月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	166,455	1.4	9,058	△5.6	9,169	△6.0	6,298	△7.4
2022年3月期第1四半期	164,197	4.7	9,599	△10.3	9,756	△10.0	6,801	△3.5

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 6,305百万円(△9.6%) 2022年3月期第1四半期 6,978百万円(△1.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	53.87	53.86
2022年3月期第1四半期	58.18	58.18

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	326,250	222,690	68.2
2022年3月期	325,768	220,592	67.7

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 222,660百万円 2022年3月期 220,564百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	35.00	—	36.00	71.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	50.00	—	50.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	345,500	5.7	17,750	△1.0	18,000	△1.3	12,150	△2.5	103.91
通期	693,000	6.8	35,400	4.0	36,000	3.6	24,200	1.5	206.97

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2023年3月期1Q	119,331,184株	2022年3月期	119,331,184株
------------	--------------	----------	--------------

② 期末自己株式数

2023年3月期1Q	2,407,836株	2022年3月期	2,407,740株
------------	------------	----------	------------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2023年3月期1Q	116,923,398株	2022年3月期1Q	116,900,220株
------------	--------------	------------	--------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料 3 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2022年4月1日~2022年6月30日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中において、行動制限の緩和等により経済活動が正常化に向かう動きが見受けられたものの、ウクライナ情勢の長期化による原材料価格・原油価格の高騰や、急速な円安進行による物価上昇等、先行きは極めて不透明な状況が続いております。

当業界におきましては、インバウンド需要の長期消失や化粧品需要減少の継続、同業他社との出店競争や大手同士の業界再編等、経営環境は一層厳しさを増しております。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、お客様や従業員の安全・安心を最優先に感染症予防対策を徹底し営業活動を行いました。引き続き「安心・信頼・便利の提供」をキーワードに、専門性を一層高め、お客様に必要なかつ期待される質の高いサービスレベルの向上・生鮮食料品の導入・食料品の販売強化等に取り組むとともに、積極的な新規出店・通信販売事業拡大・デジタル化推進による効率化等に取り組んでまいりました。

当第1四半期連結累計期間の当社グループ全体の出店などの状況は、9店舗を新規出店いたしました。また、30店舗で改装を行い、4店舗を閉店し活性化を図りました。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間末の当社グループ全体の店舗数は、ドラッグストア事業949店舗(直営店749店舗、(株)星光堂薬局71店舗、(株)サンドラッグプラス63店舗、フランチャイズ店66店舗)、ディスカウントストア事業337店舗(ダイレックス(株)337店舗)の合計1,286店舗となりました。

当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高1,664億55百万円(前年同期比1.4%増)、営業利益90億58百万円(同5.6%減)、経常利益91億69百万円(同6.0%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益62億98百万円(同7.4%減)となりました。

セグメント業績等の概要は次のとおりであります。

<ドラッグストア事業>

ドラッグストア事業は、生鮮食料品導入等の積極的な店舗改装を実施いたしましたが、郊外型店舗におきましては、一昨年の巣ごもり消費需要の反動減影響が5月まで継続し、駅前型店舗におきましては、インバウンド需要消失、コロナ禍における化粧品需要減少が継続いたしました。また、天候不順やそれに伴う季節商材の不振、中国のロックダウンによる越境EC需要の大幅減少の影響等が重なり、売上高が前年同期を下回りました。経費面につきましては、電子棚札導入等の業務効率化を推進いたしました。また、原油価格上昇に伴い光熱費等が増加いたしました。全社的に節電等に取り組み経費抑制に努めました。ドラッグストア事業の出店などの状況は、6店舗を新規出店し、24店舗を改装したほか、3店舗を閉店し活性化を図りました。

以上の結果、ドラッグストア事業の売上高は1,084億90百万円(前年同期比0.5%減)、営業利益は56億36百万円(同8.7%減)となりました。

<ディスカウントストア事業>

ディスカウントストア事業は、ドラッグストア事業の郊外型店舗同様、一昨年の巣ごもり消費需要の反動減影響が5月まで継続いたしましたが、ペット用品等の好調商品の販売強化や、6月からの急激な気温上昇に伴い夏物家電が順調に推移し、売上高が前年同期を上回りました。ディスカウントストア事業の出店などの状況は、3店舗を新規出店し、6店舗を改装したほか、1店舗を閉店し活性化を図りました。

以上の結果、ディスカウントストア事業の売上高は703億54百万円(前年同期比5.5%増)、営業利益は34億22百万円(同0.0%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ4億81百万円増加し、3,262億50百万円となりました。主な要因は、新規出店、改装による建物及び構築物の増加等によるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ16億15百万円減少し、1,035億59百万円となりました。主な要因は、未払法人税等の減少等によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ20億97百万円増加し、2,226億90百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年5月13日に公表しました業績予想に変更ありません。

(注) 業績の見通しにつきましては、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は見通しと大きく異なることがあります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	89,330	88,749
売掛金	19,108	18,975
商品	72,415	73,284
原材料及び貯蔵品	126	119
その他	18,561	17,807
貸倒引当金	△4	△4
流動資産合計	199,537	198,931
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	54,957	55,658
その他（純額）	22,897	22,926
有形固定資産合計	77,855	78,584
無形固定資産		
のれん	2	2
その他	5,951	6,009
無形固定資産合計	5,954	6,011
投資その他の資産		
敷金及び保証金	25,207	25,236
その他	17,218	17,489
貸倒引当金	△4	△4
投資その他の資産合計	42,420	42,721
固定資産合計	126,230	127,318
資産合計	325,768	326,250

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	67,029	68,378
未払法人税等	5,199	3,139
役員賞与引当金	36	19
その他	23,779	22,782
流動負債合計	96,045	94,319
固定負債		
退職給付に係る負債	1,696	1,747
資産除去債務	5,300	5,347
その他	2,133	2,145
固定負債合計	9,130	9,240
負債合計	105,175	103,559
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,931	3,931
資本剰余金	7,430	7,430
利益剰余金	215,145	217,234
自己株式	△3,939	△3,939
株主資本合計	222,567	224,656
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	56	62
土地再評価差額金	△1,940	△1,940
退職給付に係る調整累計額	△120	△118
その他の包括利益累計額合計	△2,003	△1,996
新株予約権	28	29
純資産合計	220,592	222,690
負債純資産合計	325,768	326,250

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	164,197	166,455
売上原価	124,937	126,443
売上総利益	39,259	40,012
販売費及び一般管理費	29,660	30,954
営業利益	9,599	9,058
営業外収益		
受取利息	30	24
受取配当金	2	3
固定資産受贈益	74	40
その他	50	45
営業外収益合計	159	112
営業外費用		
支払利息	1	2
その他	0	0
営業外費用合計	1	2
経常利益	9,756	9,169
特別利益		
固定資産売却益	285	0
受取補償金	0	—
特別利益合計	285	0
特別損失		
減損損失	32	—
固定資産除却損	15	13
その他	3	0
特別損失合計	51	13
税金等調整前四半期純利益	9,990	9,155
法人税等	3,188	2,856
四半期純利益	6,801	6,298
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,801	6,298

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	6,801	6,298
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5	5
土地再評価差額金	176	—
退職給付に係る調整額	5	1
その他の包括利益合計	176	7
四半期包括利益	6,978	6,305
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,978	6,305
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は法人税等を含めて表示しております。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	ドラッグストア 事業	ディスカウント ストア事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	97,484	66,712	164,197	—	164,197
セグメント間の内部売上高 又は振替高	11,515	3	11,519	△11,519	—
計	109,000	66,716	175,717	△11,519	164,197
セグメント利益	6,175	3,423	9,599	—	9,599

- (注) 1. セグメント利益の調整額は、全額セグメント間取引消去によるものであります。
 2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
 3. 顧客との契約から生じる収益以外の収益は、重要性が乏しいため、区分しておりません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	ドラッグストア 事業	ディスカウント ストア事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	96,104	70,351	166,455	—	166,455
セグメント間の内部売上高 又は振替高	12,386	3	12,389	△12,389	—
計	108,490	70,354	178,845	△12,389	166,455
セグメント利益	5,636	3,422	9,058	—	9,058

- (注) 1. セグメント利益の調整額は、全額セグメント間取引消去によるものであります。
 2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
 3. 顧客との契約から生じる収益以外の収益は、重要性が乏しいため、区分しておりません。